

別れた孫へラブコール

福原大壽

青森県・六九・会社員

長谷川千剛さん・久人さん。あなた達二人は苗字が違ってても、私には掛替えのない、大切な孫です。祖父の私は大きな光明を求めて、いま二人に、このラブレターを綴ります。

千剛・久人のお父さんが、お母さんに、たくさん心配かけたので離婚する、悲しい結果となりました。千剛が小学校へ入学する直前、久人はまだ一歳八ヶ月でした。

あれからもう五年が経ちます。千剛は五年生、久人も来年一年生ですね。お母さんと、二人のこれまでの苦勞を思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいです。本当にごめんなさい。離婚後の親権は、お母さんの強い意志で、長谷川さん方へ移りましたが、お父さんは千剛が学校へ入ってから苗字が変わることは、精神的に更に重い負担を背負うことと心配し、不本意ながら同意したのです。

初孫として、千剛誕生の平成三年六月十二日。それは言葉では表現出来ない、最高の喜びでした。名前は、祖父母・両親の四人が一生懸命考えた結果、おじいさん提案の

「千剛」と決まったのです。それだけに、私には特別な感慨があります。同じ町内から学校へ通う子供達を見ると、二人を思い出し涙が溢れます。

千剛・久人を中心に設計された、新しい住宅が離婚調停中に建てられましたが、お父さんは親子四人、いつか必ず一緒に住めるものと信じているはずです。お父さんは深く反省しています。そして、必ず三人を迎えに行くことと確信しています。

今度こそ、福原千剛・福原久人として、お母さんと一緒に帰って下さい。おじいさんは、千剛とたのしく過ごした五年前に戻りたいのです。そしていまだ、きちんと言葉を交したことのない久人と、たくさんお話をしたいのです。心から待ち望んでいます。

*両親が離婚して五年、孫二人が不憫でなりません。一日も早く復縁し、平和な家庭が再び実現する様、強くお願いいたします。